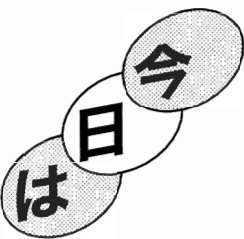


(水曜日発行)

第3713号

(第三種郵便物認可)



ピーピーシー・インターストリス(米・ピッツバーグ)のアジア・パシフィック地区ゼネラルマネージャー(自動車補修部門担当) Mike Horton氏が7月5日に来日した。同氏はICI(英)に入社後、1997年にICI(豪)に移り、その後PPGのICI買収により、以来、中国・上海で責任者として活躍している。同地区、とりわけアジア地区における自動車補修を含めた販売戦略、また同社方針などについて次のように語った。

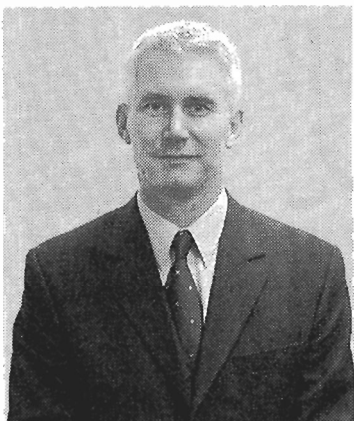
今後アジア地区で売上げを伸ばしていくためには二つの方法がある。一つは既存市場・顧客からの売り上げアップ、もう一つは有力企業の買収である。財務面でもキャッシュフローが整っており、攻勢を強めていく態勢にある。

注目市場は中国とインド、政情が安定すればフィリピンやインドネシアも考えられる。我々はただ塗料を売るだけではない。これは会社全体の方針でもある。付加価値をつけて売る。例えば、ホディッシュアップ

アジア地区におけるコーティング事業は、1998年以降、年平均18%の売り上げアップを続け、好調を維持している。この地区には10工場と17研究所があり、営業部門に600人が配属、トータルで1600人が働いている。

にはよりの効率の良い塗装方法など、支援プログラムやサービスに重きを置いた展開を図っている。

もちろん日本も成熟市場であるが、大事なマーケットに違いない。今後にはよりの信頼関係が深まり、しっかりと販売計画を立てられる。互いに新しいサービスを補って伸ばしていくことが合意したわけ



Mike Horton氏

PPGインターストリス

狙いは中国、インド 付加価値つけた塗料販売

あり、複雑な日本の販売網の中でインターナショナルブランドが扱われることと期待している。

非常にパワフルになったわけで、顧客にとっても利益の多い展開を提供できる。当社はこのアジア・パシフィック地区において、色々な情報を発信していきたい。

最近では、韓国のドンジュ・インターストリアル社(東洲塗料)の株式保有率を100%にしたばかりである。同社は新車用塗料(OEM塗料)、自動車補修用塗料、工業用塗料、容器用コーティング材を製造しており、チョンアンとアサンに製造拠点がある。これにより韓国での売り上げを伸ばしていきける。

また、米・カリフォルニア州パサディナにあるアムロン・インターストリアル・コーポレーションのパフォーマンス事業の買収に合意したところである。同社は米国、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドに製造拠点がある。この買収により、当社の重防食塗料事業はヨーロッパとオーストラリアに拡大し、加えて、船舶用塗料市場にも参入できる体制が整った。

こうした買収により、新車用塗料、自動車補修用塗料、工業用塗料、建築用塗料、パッケージ用塗料、航空機用塗料、船舶塗料と7つの塗料を扱うことになった。今回の2社の買収により、塗料の年間売上高は約4億増加し、前年比7%増となるだろう。

当社は革新を続け、マーケットニーズに合ったものを提供し、売り上げと利益を伸ばしていく。大きなターゲットは中国とインド、全社的にはさらに南アメリカ、中東欧であるが、北アメリカや日本などの成熟市場においてもマーケットを取り、寡占化を図っていく方針だ。

これにより信頼関係が深まり、しっかりと販売計画を立てられる。互いに新しいサービスを補って伸ばしていくことが合意したわけに違いない。今後にはよりの実績を残し、顧客満足度を満たしていきけるように様々



発行所
塗料報知新聞社
編集印刷発行人 有馬得之
本社 電話(03)3260-6111
東京都新宿区矢来町3番地
FAX(03)3260-6116
振替口座 00170-5-196510 番
関西支社 電話(06)6244-0601
大阪府中央区南船場3-27 (サンエビル)
FAX (06)6245-4091
振替口座 00900-2-120509 番
購読料1か年(消費税込み)19,950円
URL <http://www.cpi-media.co.jp/oryo/>

日本専門新聞 協会加盟紙

©塗料報知新聞社 2006